5月の学習会の報告

５月の語る会は，「動いて，考えて，また動く」（４年生教材）の教材研究を行いました。

田中先生より

〇和気の藤公園へ

・毎年行っている藤公園の藤だが，毎年咲き方がちがっておもしろい。暗くなりかけた頃からライトアップされるが，藤の香りの中を歩くのがよい。気候の変化によって咲き方が変わり，同じ咲き方が二度とないと思うと趣深い。今年は藤の花を見て，この花はこの瞬間しか見られないのだ，という「一期一会」の喜びを味わった。喜びが一度でも大きいと，また見たいという思いが続いていく。

・学習でも，同じ。「～したい」という思いがあり待ち続けると，実感が得られ，次に続いていく。喜びをもつと継続するエネルギーにつながっていくのだと思う。

〇ワークシートの活用

・考える力をつけることが，今の学習に求められている。ワークシートを，個人が考えをつくっていく情報集をするためのものだけではなく，共同で考えをつくっていくためのものとして使っていきたい。

・電子黒板とタブレットを活用することも，学び合いを成立させる一つの方法。電子黒板は，提示機能を用いた実践が圧倒的に多い。タブレットとセットで使っていくことで，個人の学習を即座に全体の材料として視覚的に提示することができる。個人の考えを全体の場で提示して，話合いにつなげていく。考えの過程を全体で確認しながら学習を進めていく。考えさせる課題を与えるだけではなく，考える過程をモデル化する必要がある。

〇今日の教材研究

・「動いて，考えて，また動く」のどんなところを子どもに読ませたいか。

・おもしろ見つけ・丸ごと読みの関係をふまえて，丸ごと読みで授業をするとしたらどう切り込むか。

教材研究（グループごとに）

グループ１

〇イメージをふくらませるためにイラストがあるが，わかりにくいという意見が出た。

〇「忍者のようにぴたあっと」の表現が，わかりやすいという意見とわかりにくいという意見が出た。

〇走ることだけの内容ではなく，他のことにもつなげていけるような展開にできたらいい。

グループ２

〇子どもは，「どうやったら速く走れるのか」という疑問をもって読むが，筆者は「最高の走り方を見出す」過程を伝えたい。

〇「動いて，考えて，また動く」のサイクルが大切。

〇接続語のつながりがわかりにくい。時間の経過がはっきりとわからない。

〇走り方は人によってちがうため，走り方の内容を読もうとするのは難しい。

〇「まず動く」と言っているが，動いた時点で考えているのではないか。

〇「高野さんはすごい」という感性的な読みは，最初から最後まで貫ける。

グループ３

〇１段落と８段落での，筆者の伝えたいことは，初読でもわかるが，実感としてとらえられるところまで子どもに読ませたい。

○高野さんの実感から書かれている文章なので，子どもの心が動きやすい。
○最後には，「あなたにしか」という書きぶりがあるので，自分のことにつなげていける
○「動いて，考えて，また動く」とは，「成功や失敗をくり返す」こととつないで読める。
○イラストをどう使っていくかを考えていきたい。
○２～６段落のつながりがはっきりしにくい。

グループ４

○構成という点で言えば，この説明文は双括型の文章。
○文末表現「～のです」は，手段と目的を見分けるためにも着目できる。
○「高野さんのすばらしいところを見つけよう」というめあてだと，丸ごと読みでいけそう。「すばらしさは全部同じか」という切り口で，すばらしさにネーミングを付けていくといいのではないか。

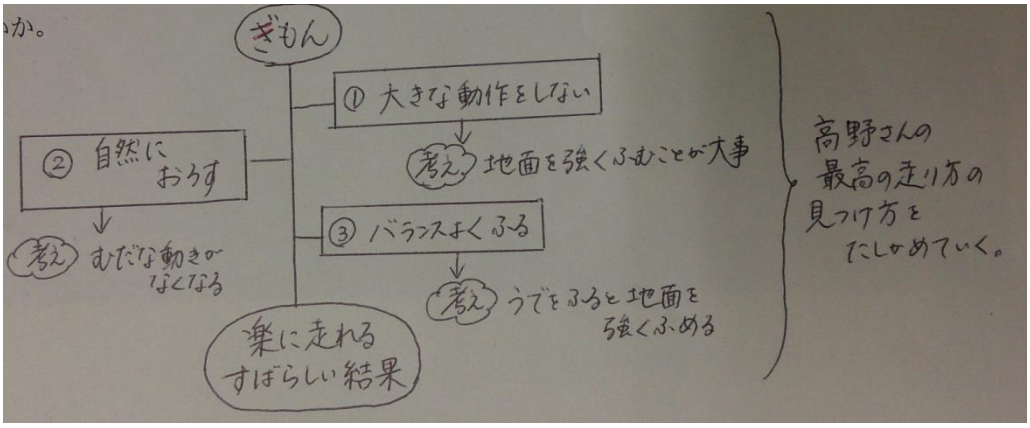
田中先生より

○説明文の丸ごと読みは，物語文の丸ごと読みとは少しちがう。説明文は，「筆者は何が伝えたいのか」をはっきりさせると内容がわかる。つまり，問いと答えがはっきりするとわかる。この教材は，問いと答えが潜在化されているので，顕在化させるとわかる。問いは「長年の経験からどんなことを読者に伝えたいのか」，答えは「伝えたいことは～だ」ということを見つけていけばよい。
○論理を明確にしていくための接続詞に着目すると，「そこで」「あとから考えるとわかったのですが」「もう一つの」「あしの動きと同時に」「このように」などの言葉が，文章構造を明らかにする根拠となる。
○２，３段落が問いにあたる部分，４～６段落が答えになっている。７段落は前の経験をふまえて書いている。
○どんな発問，読ませ方をすれば，子どもたちに気付かせられるか。どんな学習課題から入っていくのがいいか，考えていきたい。

授業展開について（グループごと）

グループ１

○筆者に目を向けさせて読めるようにするとよいのではないか。「筆者は何を伝えようとしているか」と教師が提示し，部分ごとに分けた丸ごと読みをしていくのもよいと思う。
○初発の感想から，「高野さんはすごい」という筆者に対する感想と，「走り方」に反応した感想が出てくると考える。そこから，大きなめあて「高野さんの最高の走り方の見つけ方をたしかめよう」を作り，授業展開していけるのではないか。

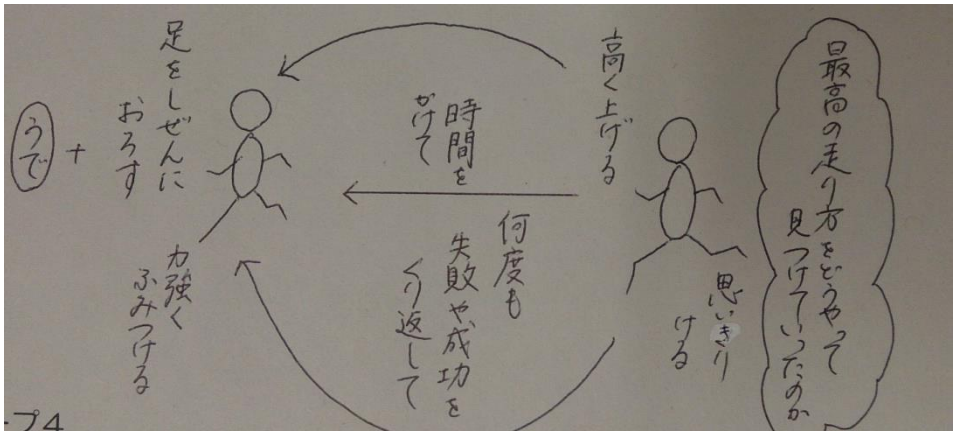


グループ２

○グループ１と同じように，「高野さんの最高の走り方の見つけ方」を見つけていくようなめあてを作り，段落ごとに最高の走り方の見つけ方を確かめていくとよい。

グループ３

〇大きなめあて「最高の走り方をどうやって見つけたのか考えよう」をもとに，高野さんが試行錯誤を繰り返しながら最高の走り方を見つけていった過程を確認できるようにしていくとよい。



グループ４

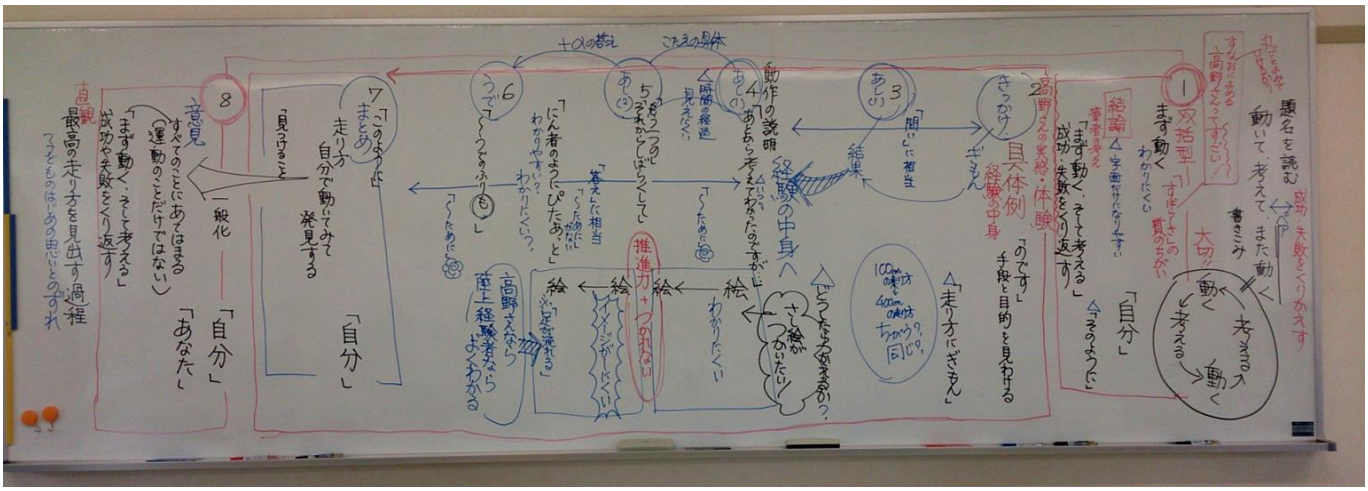
〇高野さんのすばらしさについて見つけながら読むのは，子どもはしっかり反応できると思う。「何を伝えようとしているのか」と読ませると，答え見つけになってしまう。どのように読んでいけば子どもの知的探求を持続させる授業展開になるのか。まだまだ考えていきたい。

田中先生より

〇物語文の丸ごと読みは，「すごい」「すばらしい」などの直観をもつこと自体がゴールとも言えた。説明文では，「すばらしい」だけでは続けられない。すばらしさのきっかけを見つけていくことが大切。筆者が伝えたいことは何か，それについて自分はどう思うか，というところまで到達させたい。

〇説明的文章の丸ごと読みの課題をはっきりさせることが大切。

〇筆者の経験を，しっかりとらえさせることが大切。

「あれこれためす」→動く　　「どうなるのかな」→考える　　「記録会でためす」→動く

この筆者の経験を言葉に着目しながら読んでいくことが大切になってくる。